



Data

監督・脚本: M. ナイト・シャマラン

原案: フレデリック・ペータース、
ピエール・オスカル・レヴィ
— 『SANDCASTLE』

出演: ガエル・ガルシア・ベルナル
/ ヴィッキー・クリープス /
アレックス・ウルフ / トーマ
シン・マッケンジー / ルーフ
アス・シーウェル / ケン・レ
オン / ニキ・アムカ＝バード
/ アビー・リー

👁️👁️ みどころ

あっと驚く“隠しネタ”の鬼才、M. シャマラン監督が本作で設定した美しいビーチでは、30分が通常の1年、1日は約50年。そうすると・・・？

本作中盤のサスペンス性とホラ一度に注目だが、本来のテーマは“古い”。
秦の始皇帝は“不老不死の薬”を求めたが、本作の主人公たちは？

日本はなぜワクチン敗戦に至ったの？日本初のワクチンはなぜできないの？
ネタバレ厳禁ながら、そんな悔しさ(?)と対比させながら、本作の問題提起をしっかりと受け止めたい。

■□■ 絶頂からどん底を経たシャマラン監督が見事に復活！ ■□■

ネタバレ厳禁映画は多いが、29歳のM. シャマラン監督が1999年に発表した『シックス・センス』はまさにその代表。私はずっと意味が分からなかった！いや、私はあの時点で分かった！そんな“論争”があちこちで繰り広げられ、一躍彼は世界のビッグネームになった。しかし、その後彼が発表した作品は、私が観た作品だけでも『ヴィレッジ』(04年)、『シネマ6』(310頁)、『レディ・イン・ザ・ウォーター』(06年)、『シネマ12』(72頁)、『ハプニング』(08年)、『シネマ21』(291頁)、『アフター・アース』(13年)、『シネマ31』(252頁)があるが、それらを含めて必ずしも成功したものばかりではない。むしろ、観客動員数と興行収入が次第にジリ貧になっていく中、シャマラン作品から手を引く制作会社が次々と……。本作のパンフレットには、猿渡由紀(映画ジャーナリスト)の『シャマランにとって特別な意味で誇りを感じる作品』があり、そこでは、絶頂からどん底を経て、見事に復活を果たしたシャマラン監督の生きざまが解説されているので、これは必読！

他方、村山章(映画評論家)の『円熟のキャリアに達したシャマランが、普遍的な複数

のテーマに果敢に挑んだ真摯な名作』は、「シャマラン映画のドンデン返しは、言うなればキャラメル箱の箱についてくるおまけのおモチヤミたいなものだ」としたうえで、本作について、まさにタイトルどおりの分析を加えている。本作がどこまでヒットするのかは知らないが、まさに絶頂からどん底を経て、見事にシャマラン監督が復活！

■□■ビーチの30分は通常の1年、1日は約50年。すると？■□■

原題も邦題も『OLD (オールド)』とされた本作のチラシに躍る文字は、「たった一日で老いて朽ち果てるバカンスに隠された、衝撃の真実とは？」というもの。また、何度も観た予告編では、美しいビーチを訪れた4人家族が紹介された後、突然姿を消した息子を探している母親が「私の息子を見かけませんでしたか？」と聞くと、「ママ、僕はここにいるよ！」と答えるシーンが登場するが、そこでは6歳だった息子が青年に急成長していたから、ビックリ！これは一体ナニ？

ここまでは事前に公開オーケーとされた情報だが、スクリーンを観ていると、特別にご招待された客だけが送り込まれた美しいビーチ上では、30分が通常の1年、1日が約50年のスピードで過ぎるらしい。しかし、それは、ビーチ内にいる当事者にとっては、「なるほど、なるほど、すると・・・」、と納得しながら聞ける話ではない。そんなバカな！子供たちがあんなスピードで成長しているのなら、大人たちの老化は？

■□■導入部から一転！中盤のサスペンス度は？ホラー度は？■□■

本作は、導入部で美しいプライベートビーチでの楽しそうな雰囲気を見せつけた後、しばらくして時間が急速に進む実態が示され、さらにその理由は、ビーチを囲む岩が細胞を急速に成長させる特殊な鉱石であるためだ、ということが暗示される。そんな設定だから、映画としては、それが明らかになるまでのサスペンス度がテーマになるので、それに注目！

また、本作中盤では、時間が急速に進むことによって生まれるさまざまな「恐怖」がこれでもか、これでもか、という形で示されるので、それにも注目！たとえば、子供だった男女が急速に成長し、あっという間のエッチで生まれてきた子供の運命は？

他方、本作の主人公となる保険数理士のガイ・キャバ (ガエル・ガルシア・ベルナル) と博物館学芸員のプリスカ・キャバ (ヴィッキー・クリープス) は、楽しいはずのこの家族旅行で離婚の話し合いをする予定だったようだが、その原因はプリスカが下腹部に腫瘍を抱えていたため。時間が急速に進めば、その腫瘍の悪化の速度は？

そんなこんなさまざまな状況が急展開していく本作中盤では、M. シャマラン監督特有のホラー度をしっかり確認したい。

■□■人間の寿命とは？老いとは？■□■

『大脱走』(63年)の“脱走の失敗”と同じように、本作でもビーチから泳いで逃げたのが失敗なら、崖をよじ登っての脱出も失敗。死者の数を重ねていただけだった。しかし、1日が終わろうとする今、マドックス (トーマシン・マッケンジー) とトレント (アレックス・ウルフ) が既に大人になっているのだから、その両親であるガイとプリスカは

既に老人に。「人間50年」と悟っていた織田信長の活動期は結構長かったが、ガイとプリスカの壮年期と老年期はわずか1日だけだから、そりゃ偉いもの・・・？

それはそれで仕方ないが、問題は崖の上からビーチを監視しているらしい人物がいること。こりゃ一体ナニ？冒頭、ガイとプリスカから一族を笑顔で迎え、特別サービスとしてビーチへ送り込んでくれたマネージャー（グスタフ・ハマーステン）が怪しい人間であることは明らかだが、これを見れば何らかの“陰謀色”がブンブンと・・・。

そんな状況下でも、プリスカはビーチでの緊急の簡易手術（？）が成功したおかげで生きできたし、他の人々がそれぞれ悲惨な最期を遂げる中、この夫妻は老衰死するまで生き延びることができたから、それなりに幸せ？そう思えるかどうか？M. シャマラン監督の本作における“問いかけ”だが、それに対するあなたの“答え”は？そして、マドックスとトレントの“答え”は？

■□■イドリブ少年の暗号メモは？再度の脱出作戦の成否は？■□■

本作は、ラストになってやっと、ホテルに到着した6歳のトレント（ノーラン・リバー）がホテルのマネージャーの甥っ子であるイドリブ少年と友達になって遊んでいたことの意味が明らかにされる。それが、「御一行」がプライベートビーチに向かう際に、イドリブがトレントに渡していた“暗号の手紙”だ。

何度かスクリーン上に示されるその暗号は子供じみたものだから、2人の少年だけの子供じみた遊びの産物！そう思っていたが、今やすっかり成年になり、両親を老衰で失ってしまったトレントが、改めてその暗号の解説に挑んでみると・・・。ストーリーのラスト近くになって、やっとその暗号が「僕の叔父さんは珊瑚が嫌い」と読み解けたようだが、さてその意味は？そして、その後、トレントとマドックスが再度挑んだ脱出作戦の成否は？

■□■ワクチンや新薬の治験はなぜ早くできないの？■□■

菅義偉総理が、自民党の総裁選挙への出馬を断念！さる9月3日に飛び込んだそんなニュースに日本中が震撼したが、その一因が菅政権のワクチン対策の失敗にあることは明らかだ。それにしても、日本での新型コロナワクチンの開発はなぜ遅いの？新薬開発に、なぜそんな時間がかかるの？なぜ、もう少し早くできないの？本作の鑑賞前にそんな議論をしていけば・・・。

M. シャマラン監督の衝撃のデビュー作『シックス・センス』が“ネタバレ厳禁”だったのと同じように、当然本作もネタバレ厳禁。しかして、チラシに書かれた「バカンスに隠された、衝撃の真実」は、あなた自身の目でしっかりと！

■□■9月6日付日経新聞「夕刊文化」で本作を紹介！■□■

私は朝日、読売、産経、日経の4紙を購読しているが、この評論を書いている2021年9月6日（月）の日経新聞「夕刊文化」の欄に、「シャマラン監督がスリラー新作」、「緊張・不安あおる謎解き」という見出しの紹介記事を発見した。インタビューの中で彼は、「子供の頃から謎解きに中毒している」と語り、『シックス・センス』に続いて、再び本作で「観

客の緊張感と不安感を煽って」いるが、そこでも、「一時、興行的にも批評的にも低迷したが『スプリット』（17年）が大ヒットし復活を果たした。」と紹介されている。

私が注目したのは、彼が「原作を繰り返し読んでいるうちに映像化したくなった。その理由は4つある」と述べた上、①ビーチにミステリーゾーンのような雰囲気があること、②ブラックコメディの要素が感じられること、③設定の中に深い哲学が織り込まれていること、④海外が舞台になっていること、を挙げていること。当然、私たちが注目すべきは、「設定の中に織り込まれている深い哲学」だが、あなたは本作の“哲学性”をどう受け止める？

2021（令和3）年9月8日記